

明石工業高等専門学校図書館

図書館報

第52号 平成29年1月

目次

巻頭言	(1)
図書館と私	(3)
自著紹介	(4)
私と読書	(6)
購入希望図書案内	(7)
購入希望申込方法	(8)
読書感想文コンクール	(9)
ブックハンティング	(14)
推薦図書	(15)
利用統計	(16)
利用案内	(17)
海外の図書館	(18)

おすすめの一冊

笠井 秀明

「皆さんの卒業を思うにあたり、ふと、ロンドン滞在中の空き間にThe Long Waterを散歩した時の事を思い出しました。英国物理学会（IOP）の学術誌JPCMのExecutive Board Meetingへの出席を主たる目的として、毎年11月、ロンドンに滞在している中の一コマです。ホテルから北へ、インペリアル・カレッジ・ロンドンに向かって歩くと、国立歴史博物館、国立科学博物館などがあり、さらに少し歩くと公園（ハイドパーク）に入る、といった情景です。歴史を辿ってみると、1730年、王女Caroline(George IIの妻)の希望により宮殿付近を堰き止めた川から造られた湖がThe Long Waterの発祥であり、長い川を想わせる形状を保っているといった、ユニークな造りでした。今から300年程前からこの緩やかな流れが始まったとのこと。この公園では、市民が自身や犬の散歩をする様子や、ランニングする人や旅行者であっても愉しんでいる様子が伺われ、心地よい時間が流れていました。この湖のストレートで面白い名称は、私の記憶に長く留まりつつあります。

一方、300年程前の我が国といえば、元禄、忠臣蔵のころから享保、吉宗の改革のころです。元禄の悪政に庶民は苦しみ、改革による財政の安定化、健全な幕政で、苦しみから解放された時代であったとの一説があります。今のグローバル化社会から鑑みると、同じ時代であっても国内外でこんなにも違った印象が見受けられるものかと驚かされます・・・。」(2015年度卒業記念文集「子午線」挨拶文より抜粋)

上記は昨年度、本校を卒業する学生に向けて記したものです。

皆さんにお勧めする書物を、と考え、上記文中の「忠臣蔵」を思い出しました。

吉川英治氏著の「新編忠臣蔵 <1~2>」(角川書店)です。

忠臣蔵を描いた作品は数多くありますが、エピソードが繊細で、私の印象に特に深く残っているのがこの書籍です。皆さんご存知のとおり、江戸城の松の廊下で浅野内匠頭が吉良上野介を斬りつけた事件を描いたものですが、読み入るうち、事件の背景を読み手の皆

さんが各々思い描くことが出来る作品となっています。上記のわが国と他国との文化の違いや時代背景を思い浮かべながら、興味のある方は是非読んでみてください。

日常からひととき離れ、深く読書し、想像力を研ぎ澄ますもよし、浅く読書し、漂う時を感じるもまたよし。

其々、読書の時間を堪能してみてもいいのではないでしょうか。

(かさい ひであき 校長)



『新編忠臣蔵』 吉川 英治著 株式会社KADOKAWA 2013年10月

(一) ISBN : 978-4041010457 請求記号 : 913.6.Y 登録番号 : 106428

(二) ISBN : 978-4041010464 請求記号 : 913.6.Y 登録番号 : 106429

図書館と私

URA 佐伯亮太

最近、図書館に、いつ・何を求めて行っただろうか。以前は毎月発売日を待って、食い入る様に読み込んだ建築雑誌も、今では3ヶ月に一度まとめ読みをし、気になる新書はamazonでポチッとすれば翌日には手元に届く。過去の資料や流し読みをする図書なども、インターネットで複数の図書館を同時に検索して、その所在を突き止めてから足を運ぶ。こんな暮らしの中で図書館に何をしにいくのだろうか。折角の機会だと思い、この文章を図書館で書くことにした。きれいに並んだ蛍光灯の下に重たそうな木目の机と色あせたモスグリーンのイスがズラッと並ぶ風景は、私の在学時と何も変わらない。匂いもそのままだ。私の専攻する建築学の図書は、図書館の一番奥にある。久しぶりに書棚の前に立ってみる。タイムスリップしたかのような不思議な感覚とともに、卒業後、私自身の知識が大きくバージョンアップされたことに気づけた。

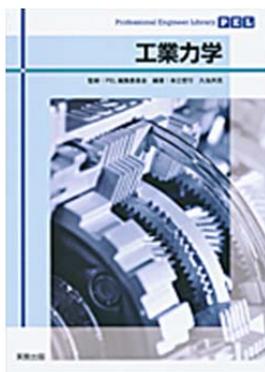
未だに鮮明に覚えている出来事がある。大学院生の頃、意味もなく中央図書館の薄暗い地下集密書架をウロウロしていた時期があった。スタジオ(研究室)に行けば否応なく課題に向かい合わなければならず、図書館にいるという事実が、ある種の現実逃避となり、地下に逃げ込んでいたのだろう。ある日いつものように、フラフラと図書館の地下室に逃げ込んだ私は、何の気なしに見た棚で1冊の本と出会った。「これからの住まい / 西山卯三(1947)」。建築を学ぶ者なら誰しもが一度は聞いたことのある名著である。薄暗い地下の集密書架で偶然にもその初版を見つけたのである。保存状態はお世辞にも良いとはいえず、ページをめくれば製本がパラパラと剥がれていった。それでも取り憑かれたようにその場で読み漁り、末尾に「ニシヤマ・ウゾー」の文字を見たときの感覚を未だに鮮明に覚えている。これが図書館と私という言葉からまず浮かんだ私の体験である。

ここ数年、明石高専の教育改善の1つとして学習環境の整備を進めてきた。その一つとして、2015年3月に協働学習センターが開所した。センターのデザインを提案できることになり、事例収集をと思い、近隣大学のラーニングコモンズ※1をひとしきり見て回ったのである。そのほとんどが図書館に併設されており、人が集まる場としてデザインされていた。そこには日本の図書館で当たり前とされていた「静かに、騒がない、飲食禁止」とは真逆の環境があった。図書館の中で授業が行われ、学生がワイワイ、ウロウロしながら何かに取り組んでいる。例えばある大学では、ラーニングコモンズに併設するカフェを学生団体が運営していた。そしてカフェスタッフのエプロンも、カフェの内装も、カフェのイベントも全て学生が提案し、運営していた。そこはもはや図書を中心とした図書館ではなくなっていた。ここにこれから私たちが図書館に行く理由があるような気がする。

私が卒業してから、10年近くが経ったが、明石高専の図書館はといえば、レイアウトが変更になり、外装が真っ白に整えられたものの、その本質的な価値は変わっていないように思う。これから私たちは図書館に、いつ・何を求めて、だれと行くのだろうか。偶然にも明石高専の図書館は情報メディアセンターの中にある。近い将来、新たな価値をもった場として生まれ変わることが、私達の図書館経験をより深めるように思う。

※1. 複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。(文部科学省)

自 著 紹 介



國峰 寛司

『Professional Engineer Library 工業力学』

池田耕、伊藤昌彦、國峰寛司 他 6 名共著

実教出版 2016 年 10 月

ISBN978-4-407-33789-1

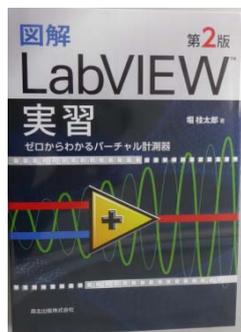
請求記号：501.3.J 登録番号：106531

本書は、1 章あたり 10 数ページ程度の 15 章で構成されており、各章は文部科学省「技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究報告書」、および国立高等専門学校機構「モデルコアカリキュラム(試案)」に準拠したテーマに分かれている。執筆者は、高専や大学の機械工学系の学科で「工業力学」を担当している現役の教員であり、執筆者らのこれまでの教育経験をもとに、新たな視点からのアプローチも取り入れられている。また、学習者が主体となって能動的に学べるように、予習や復習を促す要素や、工学ナビやプラスアルファなどといった、学習支援となる要素をふんだんに盛り込んだものになっている。

小生は、2 つの章を担当した。特に 2 章の「工学基礎と数学」では、機械工学科第 2 学年で担当していた「解析演習 I」の内容を精選してまとめた。本書が、将来の技術者を目指す学生の皆さんにとって有益なものとなれば幸いである。

(くにみね かんじ 機械工学科)

自 著 紹 介



堀 桂太郎

『図解 LabVIEW 実習 第 2 版』

堀 桂太郎著

森北出版 2016 年 6 月

ISBN978-4-627-84632-6

請求記号：501.22.H 登録番号：106532

LabVIEW (ラボビュー) は、計測・制御や画像処理などにおいて、データの集録から解析、表示までの全過程をパソコン上で行えるようにするためのソフトウェアツールです。LabVIEW を使えば、従来よりも大幅に少ない労力と経費で、より高性能なシステムを比較的容易に構築することができます。

10 年前に発行した本書の初版は、幸いにして多くの読者からご好評を賜り、8 刷まで増刷を続けてきました。一方、現在では LabVIEW のバージョンアップが進み、データ集録には USB インタフェースが主流となっています。これらの状況に対応するため、第 2 版を発行する運びとなりました。

本書は、はじめて LabVIEW を使用する方々を対象にした入門書です。図を多く用いたわかりやすい解説を心がけながら、具体的な操作手順と応用例を丁寧に示しました。本書

が、LabVIEW を使いこなす一歩を踏み出すための入門書としてお役に立つことを願っています。

(ほり けいたろう 電気情報工学科)



自 著 紹 介

太田 敏一・松野 泉

『防災リテラシー』

太田 敏一、松野 泉共著

森北出版 2016年3月

ISBN 978-4-627-45291-6

請求記号：369.3.0 登録番号：106538

平成25年度から、「防災リテラシー」という科目が明石高専で開始されました。学生の専門分野にかかわらず横断的に広く防災の基礎を学ぶ授業の提供は、日本初のものでした。当初の授業は、筆者が自前のプリントを作り、それにもとづき行っていましたが、その内容をもとに「教科書」として再構成し出版したのが本書です。

筆者は、二人とも、阪神・淡路大震災を経験した実務畑の出身であり、現場の経験を大切にしながら、災害とはどのようなものなのか、そして、それに立ち向かうための考え方とはどういうものなのかについて、基本からわかりやすく説明しています。また、防災の基本である地震や豪雨災害などにとどまらず、リスクマネジメントや事業継続計画など、技術系の人間としての必須の知識などについても項目を設けています。

この「防災リテラシー」の知識を身に着けることによって、自分やまわりの人たちの命を守れる人間になるとともに、災害にも配慮されたものづくりができるようになることを願っています。

(おおた としかず まつの いずみ 特命教授)



寄贈図書紹介

『30日で英語が話せるマルチリンガルメソッド』

新条 正恵 (著)

かんき出版 2016年2月

ISBN 978-4-761-27144-2

請求記号：830.7.S 登録番号：106184 他

今年度は、図書館で3名の著者が来校し『著者に聞く読書会・講演会』を実施した。

東京から、新条正恵先生が、学生・教職員対象の『30日で英語が話せるマルチリンガルメソッド』講演会を開催し、終了後、著書を本校の図書館に寄贈して頂いた。

コミュニケーションコーチの来栖佳子先生の著書『才能を伸ばす人が使っているコミュニケーション術』講演会、環境体験学習カウンセラーの西谷寛先生の著書『海と空の約束』の講演会を開催いたしました。いずれの本も図書館にあります。

私と読書

大塚 毅彦



『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』
リンダ グラットン／アンドリュー スコット著
池村 千秋 訳
東洋経済新報社 2016年10月
ISBN978-4-492-53387-1
請求記号：159.0.R 登録番号：106505

本書の冒頭には、このような序文が書かれている。

『・・・2007年に日本で生まれた子どもの半分は、107年以上生きることが予想される。いまこの文章を読んでいる50歳未満の日本人は、100年以上生きる時代、すなわち100年ライフを過ごすつもりでいたほうがいい。・・・』

未来を形作る要因として、テクノロジーの進化、グローバル化の進化、人口構成の変化と長寿化、社会の変化、エネルギー・環境問題の変化の5つが上げられている。2016年の日本では、65歳以上の高齢者は3461万人、総人口に占める割合は27.3%となった。2035年には3人に一人が高齢者。2010年以降の世界の情報量は飛躍的に伸び、2010年988兆MBが2020年には3京5千兆MBという途方もない情報が飛び交う、『インフオブロージョン（情報爆発）』の真ただ中にいる。

『ライフ・シフト』は、高専生全員、いや、教職員にとって、必読のキャリア支援本である。今まで、人生のステージは大きく教育、仕事、引退のステージの3つで分かれていた。社会インフラも仕組みもそれを前提に創られてきた。しかし、人生100年の時代では、教育や労働の期間も延長し、『マルチステージ』の人生を自らの力で描いていく必要がある。

技術者も、高専、大学で学んだ専門知識で終わりではなく、人生のいくつかでセカンド、サードキャリアとして学びのリセットとバージョンアップが必要である。

こうした中で以下の、3つの無形の資産がますます重要になってくるという。

□生産性資産（仕事で成功し、所得を増やすのに役立つ要素）

・スキルと知識・仕事仲間・評判

□活力資産（肉体的・精神的な健康と幸福）

・健康・バランスの取れた生活・友人関係・パートナーや家族との良好な関係

□変身資産（人生の途中で変化と新しいステージへの移行を成功させる意思と能力）

・自分についてよく知っていること・多様性に富んだ人的ネットワーク

・新しい経験に対して開かれた姿勢

人間はネオテニー（幼形成熟）のように思春期的な特徴を保ち続け、高度な柔軟性と適応力、『学び続け、行動すること』を維持すべきなのだという。多様な生涯を通じて変わり続ける、実験し続ける、学び続ける覚悟を持ち、選択肢を狭めずに新しい選択肢を模索し社会とヒューマンキャピタルにコネクトし続けることが必要となる。

まずは、自分とはどのような人間なのか？

何を大切に生きていたいと思っているのか？

を自らに問い続ける必要がある。

（おおつか たけひこ 建築学科）

購入希望図書案内

図書館に備えてほしい資料があれば、MyLibrary 経由でお申し込みください。資料の種類は、図書、視聴覚資料などジャンルは問いません。以下の選書基準と予算に応じて、ご要望にお応えしています。MyLibrary へは、図書館ホームページよりアクセス出来ます。学生証の ID とパスワードが必要になります。パスワードの初期登録は図書館カウンターまで。

図書館ホームページ（ <http://www.akashi.ac.jp/library/> ） の下記○部分



平成 27 年度は購入希望により、92 件の図書等を購入しました。

学生希望図書の選書について

平成 25 年度より、学生希望図書の選書基準を設けております。

【選書基準】

- ・ 勉強及び研究で利用する書籍を優先的に購入する。
- ・ 文学的な小説などは優先的に購入する。
- ・ 公俗に反するような書籍は購入しない。
- ・ 学生にとって好ましくない内容の書籍、学校の図書館に設置するには相応しくないと判断される書籍は購入しない。

上記の基準以外で判断しにくい書籍に関しては、外部の図書館の状況や外部識者の意見をもとに図書館長が判断する。

【選書例】

- ・ 漫画△ ライトノベル× バンドスコア× イメージイラスト集×

購入希望申込方法

1. Mylibrary を開き、ID・パスワードを入力し、「ログイン」を押します。

English | ヘルプ | 閉じる

ようこそMyLibraryへ！

MyLibraryとは、インターネットを通じてアクセスできる資料・資源・検索ツールなどをあなただけの書斎や勉強部屋のように整理しておく、Web上の図書館です。

お使いいただける方
IDをお持ちの方に限ります。

MyLibraryでできること

- ・貸出や予約状況の確認
- ・現在の研究・学習分野に関連のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成

ログイン

明石工業高等専門学校

2. 初めて利用する場合は、左下にある「利用者サービス」の「メールアドレス登録・変更・削除」を選択し、連絡を受け付けるメールアドレスを登録して下さい。

利用者サービス

- 貸出・予約状況照会
- 文献複写・貸借申込み
- 文献複写・貸借申込み状況照会
- 学生希望図書リクエスト
- 学生希望図書リクエスト状況照会
- パスワード変更
- メールアドレス登録・変更・削除

メールアドレス登録・変更・削除

E-Mail登録・変更・削除ヘルプ

1 メールアドレスを登録、または変更してください。
メールアドレス:登録されていません。

メールアドレスの設定 :

メールアドレスの再入力 :

変更を確定する キャンセル

3. 「利用者サービス」の「学生希望図書リクエスト」を選択します。

ISBN・タイトル・著者名・出版社・出版年・価格・希望理由を入力し、「申込」を押して下さい。

1 連絡方法を指定してください。

E-mail

1 申込内容を入力してください。(*は必須項目です)

ISBN : 978-4163903408 半角で入力してください。

タイトル* : スクラップ・アンド・ビルド

シリーズ :

版表示 :

著者名 : 羽田 圭介

出版社* : 文藝春秋

出版年 : 2015 半角で入力してください。

価格 : 1296 円 半角で入力してください。

書店等のカタログNo.:

希望理由 : 2015年の芥川賞受賞作品であるこの書籍を是非読んでみたいため

申込 クリア キャンセル

4. 確認画面が出るので、「申込を確定する」を押し、「閉じる」を押して下さい。

申込内容

ISBN : 978-4163903408

タイトル : スクラップ・アンド・ビルド

シリーズ :

版表示 :

著者名 : 羽田 圭介

出版社 : 文藝春秋

出版年 : 2015

価格 : 1296円

書店等のカタログNo.:

希望理由 : 2015年の芥川賞受賞作品であるこの書籍を是非読んでみたいため

申込を確定する やり直し キャンセル

学生希望図書リクエスト 受付完了

申込を受けました。

受付番号:IR.00004242

申込受付完了ヘルプ

申込状況照会へ 流用申込 連続申込 閉じる

平成28年度『読書感想文コンクール』表彰式



校長先生を囲んで記念撮影

平成28年12月21日、校長室において平成28年度読書感想文コンクール表彰式が行われました。今回の読書感想文コンクールでは下記の3名が入賞し、笠井校長より賞状並びに副賞が授与されました。

最優秀賞	建築学科	4年	一色	智仁
優秀賞	都市システム工学科	1年	眞鍋	あゆみ
優良賞	建築学科	1年	大谷	美晴

平成28年度『読書感想文コンクール』入賞作品

「純粋理性批判を読んで」

最優秀賞 建築学科4年 一色 智仁

この本は自分にとってとても難しく、今でも全く理解ができているとは言えないですが、現在わかっていることを文章にすることによって理解が進むこともあるので、感想文を書くことにしました。

カントはこの本で人間の感性、悟性、理性それぞれに対して批判を行いました。批判とはある対象を隅々まで考察し、その正確な姿を浮き上がらせることです。最初の批判は対象を「直観」する能力である感性へ、続いて直観した対象を思惟し「概念」を生み出す能力である悟性へと進みます。一つ思ったのは日常生活の大半は感性と悟性だけでまかなえるということです。例えば前から自転車が来てそれをよけるという行為を考えます。これは前から自転車が来ているという直観を感性が行い、当たると痛いという判断を悟性が下すことによってよけられるのです。こうした流れは程度の差こそあれ、ある種の高等動物やコンピューターの中にも見られると思います。まとめると、感性が直観という素材を提供し、それを悟性が判断することで概念が生み出されるということになります。



その概念を規定するのが理性です。悟性が概念を生み出すのに対し、理性は「理念」を生み出します。概念と理念の差なんて今まで考えたこともなかったですが、カントは厳密に区別します。概念は現象などの可能的なものだけに關係しますが、理念は実際には存在しないもの、仮想的なものにまで関わることができます。仮想的なものとはいったい何なのでしょう。例えば万有引力という概念は、天体の運動や落下するリングなどの現実的存在から導き出せます。しかし世界の創造者などという概念は、決して現実的存在からは導き出せません。こうした概念を理念とし、その理念を生み出す能力をカントは理性とします。理性は現象に直接働きかけることはしませんが、ちょうど憲法と法律の關係のように、悟性をある方向へ統一・指導する働きを持つのです。理性こそ人が人であるために必要な能力であるのかもしれませんが、カントの批判は理性へと続きます。

この本で最も面白いのはここからの部分だと思います。というのも、カントはここで理性に何ができるのかではなく、理性に何ができないかを示すのです。何かを正確に規定しなければならぬとき、まずその限界を見つけるのは有効な手段だと思います。カントは理性の本性に鑑み、三つの理念について批判を加えていきます。ここではそのうちの一つを見ていきます。

純粋理性のアンチノミーと名付けられたこの章で取り上げられるのは、世界は時間的・空間的に有限か無限か、単純なものは実在するか、自由は存在するか、世界の原因としての絶対に必然的な存在者は実在するか、という四つの命題です。結論から言うと、カントはこれらすべてに判定不能の判決を下します。背理法を組み合わせて二律背反を示したこれらの証明を一つ一つ見ていきたいですが、ここではむしろ、これらの判決が不可能であることの意味を考えてみたいのです。

不完全性定理が発見される百五十年近く前、数学や自然科学の発展が目覚ましかった時代に、人間に知りえないことがあると示したカントの指摘は斬新です。カントは理性認識を一個の建物に見立てこう言います。

「初め我々は、天にも届くほどの塔を建てる積りだったが、しかし手持ちの材料は一軒分の住居を建てるだけしかなかった。—そこで我々が問題にしているのは、我々に与えられていてしかもまた同時に我々の必要を充たすに恰好な材料に適合するような建物を設計するというのである。」

設計という表現が感動的だと思います。人が世界をつくったのではない以上、人間にはどうしようもないもの、知ることさえできないものが確かに存在するかもしれません。しかし、不可能

・・・読書感想文コンクール・・・

であると知ることは恥ずかしいことではないのです。むしろそれは、間違った判断や無益な時間からその人を守り、可能なものの領域を汲みつくすために必要なことだと思います。そして設計という、控えめながら、しかし全くの自由が人には備わっているのです。

（『純粹理性批判』／イマヌエル・カント著 岩波書店 1961年）



最優秀賞 建築学科4年 一色 智仁くん

BOOK *BOOK* *BOOK*

読書感想文コンクールの書籍について



読書感想文コンクール受賞者が読んだ書籍について、図書館でコーナーを設置して配架しております。ぜひ手にとってみて、読まれてみてはいかがでしょうか？

※配架場所は、17 ページ図書館内配置図の⑩の書棚の上です。

『桜の森の満開の下』を読んで」

優秀賞 都市システム工学科1年 眞鍋 あゆみ

坂口安吾の「桜の森の満開の下」を初めて読んだとき、私は怖さと気持ちの悪さで鳥肌が立った。不快感なのか、山賊の感じ方に共感出来ないからなのか、灰色の霧の中にいる気がした。この話の中の大抵の人は桜の森の満開の下を通ることを恐れている。

山賊の男は夫を殺し攫ってきた美しい女を見て不安になった。そして桜の森の満開の下を通る時の不安とその女の美しさを感じた不安が似ているという。何が、なぜ不安で、どこがどう不安なのかは分からないが。私は最初、山賊が、筆者が何を表しているのか分からなかった。この場面の直前、女は自分に妻になって欲しければ他にいる女を殺せと言ひ、山賊は言う通りにしている。だから、山賊は女を見てこれ以上何を言ってくるのかと不安になったのだと思ったのだ。しかし何度か読み返すうちに、別の考えが浮かんだ。美しく見惚れるからこそ、怖い。その美しさに心を奪われて、考えたこと、感じたこと、決めたこと、それらを思考したのは自分自身なのか、そうでないのか。それは、自分の意思なのか。自分のことが分からなくなることによって不安を抱いているのではないかと。それが分からなくなったとき、人は大きななにかに飲み込まれるような、無限に広がる世界でぽつりと一人立たされたような孤独感に押し潰される。そのような気がする。だからこそ山賊は不安になったのだろう。

これらに気が付くと、他の描写でも二つひっきり間を覚えるところがでてきた。

一つは、「彼の体は忽ちその風に吹きさらされて透明になり四方の風はゴウゴウと吹き通り、すでに風だけがはりつめているのでした。」これはそこに行くとき無意識に自分を保とうと気を張り、また、そこに行くことを恐れているために、心の中に勝手に風という「お化け」を作り出しているのだろうと思う。そして、自分の内側で作られた恐怖は簡単には消すことは出来ないのだろう。このことに気づいて私は背中に冷たいものが流れた。

もう一つは、最後に山賊が桜の森の満開の下に女を負り歩いているときに女が紫色の老婆に見えて殺してしまう。その後の「ほど経て彼はただ一つのなまあたかな何物かを感じました。そしてそれが彼自身の胸の悲しみであることに気がつきました。」の場面だ。私は悲しみがあたたかいという表現がなぜかしっくりした。悲しみは冷たいと表現されることが多い。しかし悲しみは何か今まで温かいものに触れてきたからこそ、なくなって気付く、そう思うので、しっくりくるのだと思った。この二文によって美しさと恐ろしさ、そして悲しみが一つになった。そして山賊に感情移入して孤独感を強く感じた。

こうして、考えを深めながら読むと「桜の森の満開の下」という場所が全く今まで感じていた、綺麗だという印象から様変わりし、自分の知らないものになってしまったかのような奇妙な感覚になった。最初は山賊の言動が理解出来なかったが、世界に引き込まれ、最後は同じ考えになった。これも恐ろしいような奇妙な感じ方だった。

私にとってはこの山賊のように執着し、また美しさと恐怖を感じるものはまだ見つけられていないけれど、日々の暮らしの中で様々なものを色々な角度から見直して、私のそれを見つけていこうと思う。そして見つけたときまた改めて読み、今感じていること変わったのかを考えてみようと思う。

複雑なようで分かりやすく、自分にはまだ分からない人間の感情を少し垣間見られる。この作品には感情を深く味わえる魅力を感じた。

(「桜の森の満開の下」『坂口安吾』／坂口 安吾著 筑摩書房 2008年)



「生きる」

優良賞 建築学科1年 大谷 美晴

今、世界には十分な生活ができない人、家を持たない、いわゆるホームレスと呼ばれる人は、どれくらいいるのだろうか。また、その中で親や他人の影響が大きく、なってしまった人はどれくらいだろうか。

私にはこの文を書くための鉛筆、紙も机もある。十分に栄養をとることもできれば、雨風をしのぐ家もある。そんな環境にいるからこそ、普段鉛筆を使いながら『ああ。今、私は文字を書いている。とても幸せだ。』などとは思わないだろう。また、“文字を書いている”と記したが、それこそ学ぶ環境が必要となるだろう。

時として人は突然、ホームレスになることがある。もし、私がホームレスになったとしたら、今の十分な生活から何もかもがなくなるということだ。そのような生活にたえることができるだろうか。もしかしたら、たえることができず、自ら終止符を打っていたかもしれない。

しかし、本の主人公は薬物中毒の両親を持ち、貧しくいじめも受け、矯正施設収容され、家庭が崩壊し、私と同じような年齢でホームレスとなったが、あきらめることをしなかった。彼女は様々な困難を乗り越え、猛勉強の末にハーバード大学に入学した。

これは誰でもできることではないだろう。地獄の底にいたからこそ、這い上がることができたのかもしれない。しかし、そこには自分の力というものが存在した。環境が彼女を強くしたのかもしれないが、間違いなくそこにあきらめない心があったからこそ、できたことなのだろうと感じた。

私はよく、

「やる気がでないから、後でする。」

と、口にする。この心の弱さこそが自分を落としていく。それは自分では分かっているけどどうしても甘えがでてしまい、繰り返してしまう。

私の甘えはやはり、環境にあるのだろう。しかし、全ての環境を自分の手で変えることはできないが、少しなら変えていけるだろう。彼女も頼る相手がおらず、甘えることなどできなかったが、自らの手で変えていった。私には頼る相手もいるだろうし、甘えもある。しかし、自らの手というものは人それぞれが持っているものであり、それにならうことはできるだろう。

環境の差故、彼女のように、大きく自分の世界を変えることはできないかもしれない。だが、少しずつでもいい。本当に些細なことでもいい。一日一日を変えていけたらいい。と、一番に思った。

それは、彼女も記している。

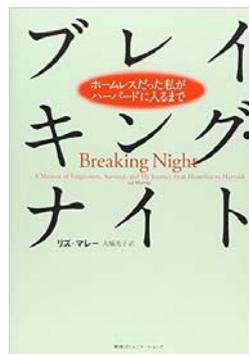
「ホームレスだろうとビジネスマンだろうと、医者だろうと教師だろうと、自分の境遇がどうであろうと、変わらないことがひとつある。すなわち、人生に意味を与えるのは自分自身だ、ということだ。」

と。

この本からは多くのことを学んだ。自分の見る世界を広げることも、見方を変えることも。

人生は何が起こるか分からない。それは良いほうにも悪いほうにも。だからこそ、面白いのだろう。しかし私は、悪いほうに転んだとき、彼女のようにあきらめない心を持ち、もちろん良いほうに転んだとしても、その心を忘れずに生きたいと思った。

そんな大切なことに気づかせてくれる本に出会えたことを嬉しく思う。



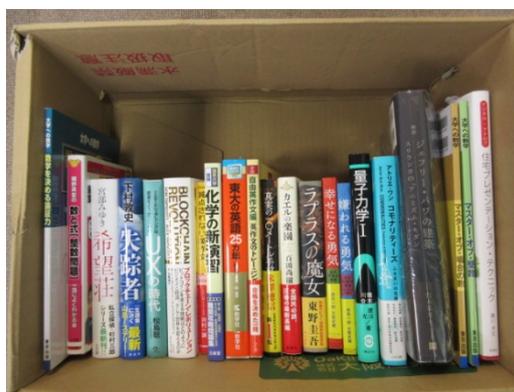
『ブレイキング・ナイト ホームレスだった私がハーバードに入るまで』／
リズ・マレー著 CCCメディアハウス 2011年)

ブックハンティング

ブックハンティングとは書店に直接出向いて、学生の皆さんの視点で本を選び購入するというイベントです。購入した書籍は学校の図書館に開架します。いつもは図書館で希望図書を注文する機会しかありませんが、ブックハンティングでは実際手にとって他と比べながら本を選ぶことができます。

実施日時：平成28年12月10日（土）13：00～15：00
実施場所：神戸三宮ジュンク堂書店
参加人数：学生3名（+図書館長・事務職員）

12月10日（土）、三宮のジュンク堂書店にて4度目のブックハンティングを実施しました。参加学生は3名で、75冊の書籍を店頭選書しました。小説や参考書はもちろんのこと、建築関係や、イノベーション関係に至るまで幅広い書籍を選びました。書籍が図書館に納入されましたら、その本を選んだ学生に簡単なコメント入りの本紹介のポップを作成してもらい、選ばれた本と共に図書館ブックハンティングコーナーに開架する予定ですので、一度手に取ってご覧いただければと思います。



ブックハンティングに参加した学生と購入した書籍



平成28年度学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

誌名	請求記号	登録番号
機械工学科推薦		
力学がわかる	423.0.O	106288
工学で使う力学がわかる	501.3.U	106289
JISハンドブック 鋼鉄Ⅰ	JIS.2016.1	106381
JISハンドブック 鋼鉄Ⅱ	JIS.2016.2	106382
「日経ものづくり」	雑誌	
電気情報工学科推薦		
2016年版 電験三種完全解答	540.79.S	106290
太陽光・風力発電と系統連系技術(改訂2版)	543.7.K	106292
次世代照明のための白色LED材料	549.81.I	106295
これ1冊でわかる超伝導実用技術	427.45.T	106296
「OHM総合電気雑誌」	雑誌	
「トランジスタ技術」	雑誌	
都市システム工学科推薦		
鋼橋の維持管理	515.45.Y	106329
海洋環境アセスメントのための微生物実験法	465.07.I	106336
技術者に必要な地すべり山くずれの知識	511.34.T	106337
図説わかる測量	512.0.I	106341
事例・演習でよくわかる水理学	517.1.S	106342
閉鎖生態系・生態工学ハンドブック	519.0.S	106345
土砂災害と防災教育	369.3.H	106348
建築学科推薦		
島田陽：日常の設計の日常	520.8.S	106350
建築系で生きよう。：若い人に聴いて欲しい本音トーク	520.4.K	106352
建築の際：東京大学情報学環連続シンポジウムの記録	520.4.Y	106353
日本建築思想史	523.1.I	106354
建築施工：基礎教材	525.5.N	106370
基礎から学ぶ建築構造力学	524.1.N	106372
一般科目推薦		
ムハマド・ユヌス自伝：貧困なき世界をめざす銀行家	289.0.M	106314
ビッグ・ファット・キャットの世界一簡単な英語の本	830.0.M	106317
山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた	491.11.Y	106321
数列の広場	410.4.Y	106389
「数学セミナー」	雑誌	
「CNN English Express」	雑誌	

全99冊、雑誌9種

利用ランキング 2015.10.1 - 2016.9.30

—図書—

- ① 57回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.6」
- ② 43回 「才能を伸ばす人が使っているコミュニケーション術」
- ③ 31回 「土質試験の方法と解説 第一回改訂版」
- ④ 30回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5」
- ⑤ 28回 「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4」
- ⑥ 25回 「ベクトル・行列・行列式徹底演習」
- ⑦ 20回 「システム英単語」
- ⑦ 20回 「TOEIC テスト新公式問題集 新形式問題対応編」
- ⑨ 17回 「演習力学」
- ⑩ 16回 「名門の森物理 電磁気・熱・原子」
- ⑩ 16回 「GitHub 実践入門」

—雑誌—

- ①206回 「新建築」
- ② 77回 「新建築,住宅特集」
- ③ 38回 「A+U」
- ④ 26回 「住宅建築」
- ⑤ 18回 「ディテール」
- ⑥ 12回 「TOEIC Test プラス・マガジン」
- ⑥ 12回 「大学への数学」
- ⑥ 12回 「文藝春秋」
- ⑨ 11回 「English express」
- ⑨ 11回 「Tennis classic break」

—DVD—

- ① 5回 「スター・ウォーズ エピソード1」
- ② 4回 「スター・ウォーズ エピソード2」
- ② 3回 「ハリーポッター 賢者の石」

図書館利用状況 (平成23年度から平成27年度)

項目 / 年度			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
年 間	入館者数	時間内	31,755	29,810	35,988	21,478	17,637
		時間外	6,714	9,874	10,194	7,614	6,259
		計	38,469	39,684	46,182	29,092	23,879
	AV ルーム	計	1,896	1,677	1,067	255	118
	貸出者数	計	3,649	4,072	3,667	3,296	3,079
	貸出冊数	計	7,014	7,637	6,987	6,497	6,295
	開館日数	年 間	290	288	291	255	291
一日平均	入館者数(時間内)		110	103	124	84	61
	入館者数(時間外)		23	41	43	36	26
	A V ルーム		7	6	8 (126日)	1	0.4
	貸出者数		13	14	13	13	11
	貸出冊数		24	27	24	25	22

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30

※平成25年8月28日より、AVルームが撤去され、演習室4(BIM・CALL)に変わりました。

※別途、新規にAVコーナー(6席)を設けております。

図書館利用案内

開館時間	
月～金曜日	8:30 - 20:00
土曜日	10:00 - 16:30
春・夏休み期間中	8:30 - 17:00
休館日	
日曜日・祝日 春・夏休み期間中の土曜日 年末・年始 12/26 - 1/4	

試験期間前・期間中の日曜（祝日）は土曜日と同じく開館しています。

	貸出冊数	貸出期間
通常	5冊	2週間
卒研	3冊	2ヶ月

卒研貸出は通常とは別に貸出ができます。
対象者(学科4年生以上、専攻科生)

学科推薦図書・JABEE関連資料・留学生向図書・視聴覚資料・参考書など
各コーナーに別置しています。

図書館内配置図

- ① 雑誌バックナンバー、建築コーナー
- ② JISハンドブック、参考図書(専門科目)
- ③ 専門雑誌
- ④ 大谷文庫、近藤文庫
- ⑤ 視聴覚資料
- ⑥ 学科推薦図書、インベーションコーナー
- ⑦ TOEIC、ブックハンティングコーナー
- ⑧ 留学生コーナー
- ⑨ 多読、教員がすすめる100冊コーナー
- ⑩ 講談社現代新書、SD選書、旅行本コーナー
- ⑪ 中公新書、知的文庫、ブルーボックス、岩波ジュニア新書
- ⑫ 推薦文庫(古典新訳)、文庫本
- ⑬ キャリア支援、JABEEコーナー
- ⑭ 新着本コーナー
- ⑮ 一般雑誌
- ⑯ マンガ本コーナー
- ⑰ 岩波新書、岩波文庫、同時代ライブラリー

開架室に配架されている
図書は分類番号順。
南から000～999



海外の図書館

La Bibliothèque de l'ENS de Lyon(École Normale Supérieure de Lyon).

C'est une bibliothèque d'étude et de recherche. Leurs collections sont destinées aux étudiants à partir de la licence, mais aussi aux masterants, aux doctorants, aux enseignants, aux enseignants-chercheurs et aux chercheurs. Elle est ouverte à l'ensemble de la région Auvergne-Rhône-Alpes, aux allocataires du RSA, aux demandeurs d'emploi et au public payant. Elle offre plus de 1,2 million de livres et revues au total.

Elle se divise en deux parties, le site Monod et le site Descartes. Les deux parties sont accessibles. Le site Monod propose des collections en sciences exactes (physique, chimie, biologie, géologie, informatique et mathématiques). Le site Descartes propose des collections en lettres et sciences humaines (histoire, géographie, philosophie, éducation, sciences sociales, politiques, économie, arts, langues et littératures).

Elle comprend également dans ces domaines de nombreux livres anciens. Ils sont manuscrits et certaines éditions datent du seizième siècle. Les livres anciens d'avant 1830 sont environ 28000. Elle conserve aussi des fonds particuliers. Ce sont des livres liés au scoutisme, livres de prix, littérature pour enfants de dix-neuvième siècle. Le plus important d'entre eux, c'est le fonds slave, riche de cent mille documents.

Partout, il y a des gens semblables. Il y a un champ derrière la bibliothèque, où des légumes comme les tomates sont cultivées. Quand je retournerai au Japon, je veux essayer de cultiver des légumes. Si possible, on élèvera des moutons ou des chèvres ensemble.

À Lyon

Le 26 octobre 2016

Atusi Matumiya

Ouvrages de références : www.bibliotheque-diderot.fr



(まつみや あつし 一般科目)

【編集後記】

図書館報第52号をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。本号の各記事が読者や図書館の利用に役立てばと願っています。

明石工業高等専門学校図書館報 第52号 2017年1月発行

編集・発行 明石工業高等専門学校図書館 〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3 (078)946-6051